

実験動物の技術と応用 入門編 増補改訂版（第二刷）の正誤表

下記の通り、記載内容に一部誤りがありましたので訂正いたします。

訂正・追加箇所	誤	正
p. 13 「2. 日本の法令と動物福祉」上から 8 行目	「この <u>基準書</u> の中には～」	「この <u>基準</u> の中には～」
p. 20 「4. 血液、(1) 血液の性質と成分」の項、上から 1 行目 (記述内容の適正化)	「この細胞成分の体積のうち、大部分を占める赤血球の割合をヘマトクリット (Ht) という。」	「この細胞成分のうち、大部分を占める赤血球の割合をヘマトクリット (Ht) という。」
p. 21 1. 口腔の項 上から 10 行目 (記述内容の適正化)	「口腔には、耳下腺、下顎腺、舌下腺という～」	「口腔 <u>周囲</u> には、耳下腺、下顎腺、舌下腺という～」
p. 25 「2. 雄の生殖器の項、上から 12～14 行目 (記述内容の適正化)	「前立腺は精液成分の大部分を分泌する。精嚢は精管が尿道に入る直前の部分から飛び出している袋状の器官である。精嚢は精液成分の一部を分泌する。」	「前立腺は精液成分を分泌する。精嚢は精管が尿道に入る直前の部分から飛び出している袋状の器官である。精嚢は精液成分を分泌する。」
p. 80 表 10-3 カテゴリーD の選択基準の欄 (脱字)	「健康な <u>マウ</u> ・ラットの体内にしばしば存在するが、～」	「健康な <u>マウス</u> ・ラットの体内にしばしば存在するが、～」
p. 96 「② 系統」の項、上から 13 行目	「近交系間で交配した <u>CDF1</u> 、 <u>BDF1</u> 、B6C3F1 など～」	「近交系間で交配した <u>CD2F1</u> 、 <u>B6D2F1</u> 、B6C3F1 など～」
p. 114 「2. 飼育管理作業、(2) 給餌」の項、上から 4 行目	「～、2～3 日分の <u>資料</u> を入れ自由摂取～」	「～、2～3 日分の <u>飼料</u> を入れ自由摂取～」

(次頁に続く)

「表 7-1 ネコの人獣共通感染症」
(誤)

表 7-1 ネコの人獣共通感染症

分類	病名	病原体名	症状	
			ネコ	ヒト
細菌性疾患	ネコひっかき病	<i>Bartonella henselae</i>	ほとんど無症状	咬まれたり、引っ掻かれた部位の発赤
	パスツレラ症	<i>Pasteurella multocida</i>	ほとんど無症状	隆起、化膿性痂皮、リンパ節腫大
	皮膚糸状菌症	<i>Microsporum canis</i> など	鱗屑、発赤・発疹、円形脱毛	鱗屑、発疹、痒み、白癬疹
寄生虫性疾患	トキソプラズマ病	<i>Toxoplasma gondii</i>	幼猫：下痢、神経症状、肺炎 成猫：ほとんど無症状	妊婦が初感染を受けた場合、先天性トキソプラズマ症状（胎内死亡、流産、網脈絡膜炎、水頭症など）の発症
	回虫症	<i>Toxocara cati</i>	幼猫：嘔吐・下痢、被毛粗造、体重低下 成猫：ほとんど無症状	内臓幼虫移行症、眼幼虫移行症
	疥癬症	<i>Notoedres cati</i>	黒い耳垢、激しい痒み、皮膚炎	皮疹、痒み、皮膚炎



(正: 訂正部位赤字)

表 7-1 ネコの人獣共通感染症

分類	病名	病原体名	症状	
			ネコ	ヒト
細菌性疾患	ネコひっかき病	<i>Bartonella henselae</i>	ほとんど無症状	咬まれたり、引っ掻かれた部位の発赤
	パスツレラ症	<i>Pasteurella multocida</i>	ほとんど無症状	隆起、化膿性痂皮、リンパ節腫大
真菌性疾患	皮膚糸状菌症	<i>Microsporum canis</i> など	鱗屑、発赤・発疹、円形脱毛	鱗屑、発疹、痒み、白癬疹
寄生虫性疾患	トキソプラズマ病	<i>Toxoplasma gondii</i>	幼猫：下痢、神経症状、肺炎 成猫：ほとんど無症状	妊婦が初感染を受けた場合、先天性トキソプラズマ症状（胎内死亡、流産、網脈絡膜炎、水頭症など）の発症
	回虫症	<i>Toxocara cati</i>	幼猫：嘔吐・下痢、被毛粗造、体重低下 成猫：ほとんど無症状	内臓幼虫移行症、眼幼虫移行症
	疥癬症	<i>Notoedres cati</i>	黒い耳垢、激しい痒み、皮膚炎	皮疹、痒み、皮膚炎

(次頁に続く)

訂正・追加箇所	誤	正
p. 147 表 7-2 ネコの主な感染症 ネコ白血病の病原体名（スペルミス）	「Feline <u>leulemia</u> virus」	「Feline leukemia virus」
p. 150 「4. 麻酔法」の項、上から 3～4 行目（一部削除）	「ネコの全身麻酔に汎用される注射麻酔薬にはチオペンタールナトリウム、塩酸ケタミン、 <u>メデトミジン</u> 、 <u>ミダゾラム</u> 、 <u>プロポフォル</u> 等がある。」	「ネコの全身麻酔に汎用される注射麻酔薬にはチオペンタールナトリウム、塩酸ケタミン、プロポフォル等がある。」
p. 150 表 7-3 ネコの主な注射麻酔薬の脚注（スペルミス）	「Laboratory Animal Anaesthesia 4th ed., P. <u>Fleckell</u> , 2016 の Table 5.15 から一部抜粋して掲載」	「Laboratory Animal Anaesthesia 4th ed., P. <u>Flecknell</u> , 2016 の Table 5.15 から一部抜粋して掲載」
p. 169 「8. 健康管理、(2) 感染症」の項、上から 1 行目	「主な感染症を <u>右欄</u> に示す。」	「主な感染症を <u>次頁右欄</u> に示す。」

2024/03